



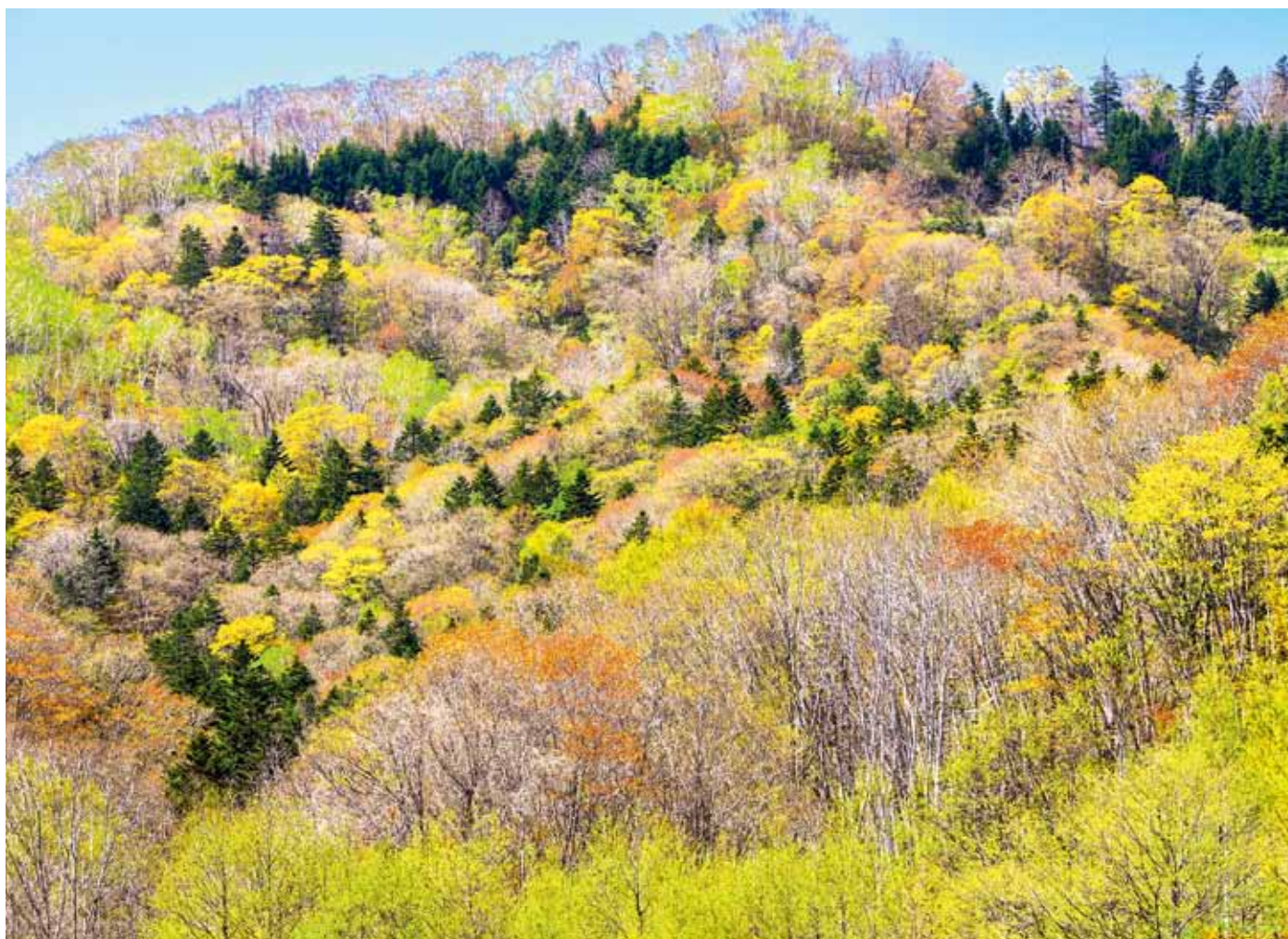
Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



目次

- 生涯学習協会「平成30年度事業計画」の概要…… 2
- 平成30年度情報交流広場展示計画（4月～9月）… 5
- これからの生涯学習を展望して…………… 4
- 随想41…………… 6
- 私の生涯学習…………… 5

生涯学習協会「平成30年度事業計画」の概要

次のとおり平成30年度の事業を計画いたしましたので、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

会計区分	事業名	内 容
公益目的 事業(公1)	1 生きがいづくり 生涯学習促進 事業	<p>国際化・高齢化・情報化等社会の変化に対応し、生涯にわたって生きがいのある人生を送るために、「生きることは学ぶこと」の視点から、道民への学習の機会を提供する。</p> <p>○テーマ：「人生を共に豊かに過ごすために」</p> <p>○期 間：5月～1月</p> <p>○会 場：全道7会場</p> <p>○対 象：道民、1会場100人程度</p> <p>○内 容：講演・実技・演習等を基本に、実施市町村の計画する内容を支援する。</p>
	2 かでる講座事業	<p>北海道150年事業 ～北海道命名150年から未来への飛躍～ 道民の学習ニーズや今日的課題に焦点を絞った講座を開設し、道民への学習機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数：10回程度 ・開催時期：4月～12月 ・会 場：かでる2・7 ・対 象：道民、1講座200人程度 ・講座時間：1講座2時間 <p>○連携開催を希望する市町村にICT機器を使用した遠隔学習を実施する。</p>
	3 ほっかいどう生 涯学習ネット ワークカレッジ (道民カレッジ) 事業の推進	<p>学習ニーズの多様化、高度化に対応するため、学ぶ意思のある道民のすべてを対象に、産学官が連携して総合的な学習機会を提供するとともに、自立した北海道の創造に寄与する人材を育成し、生涯学習のネットワーク化を図る。</p> <p>また、ジュニアコースの学びを通し、次代を担う子供たちの生きる力の育成を図る。</p> <p>○主催講座</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インターネット講座 <ul style="list-style-type: none"> ・「地域活動インターネット講座」 地域活動に関する動画を2本とDVDを制作し、インターネットで配信するとともにDVDを活用する学習を支援する。 ・「大学インターネット講座」 平成28・29年度制作の動画をインターネットで配信する。 2 ほっかいどう学地方創生塾 <ul style="list-style-type: none"> 地域の様々な機関や住民等との連携によってワークショップや講演等を実施し、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成する。 ・企画実施者：市町村や地元団体 ・申込み方法：公募（決定は道教委） ・事業規模：全道2市町村 1年目 苫前町 上士幌町 2年目 美幌町 羅臼町 ・事業内容：2年間、年間5回程度 ・そ の 他：修了者リストの作成 事業の取組みについて、ホームページに掲載し紹介。 3 地域活動実践講座 <ul style="list-style-type: none"> 道民カレッジ生がおこなっている地域活動のレポートを作成し交流をとおして、地域活動への参画を促進する。 ・事業内容：年2回実施、地域活動のレポート作成と交流、講演等 ・そ の 他：道民カレッジ生の地域活動をホームページに掲載し紹介。 <p>○連携講座 道民カレッジに賛同する大学等や市町村、民間教育事業者等が実施する講座・セミナーを体系化し、道民に講座情報を提供し学習機会の拡充を図る。</p> <p>○普及啓発・情報提供 道民カレッジ事業の推進のため、次の普及啓発及び情報提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道民カレッジガイドブックの作成及び配布 ・カレッジだよりの作成及び配布 ・道民カレッジポスター・リーフレットの作成及び配布 ・道民カレッジ手帳の作成及び交付 ・ホームページ及びツイッターによる適時な情報提供

会計区分	事業名	内 容
	4「道民カレッジ」インターネット講座支援事業	<p>「道民カレッジ」の主催講座である「インターネット講座」のレポート作成を支援する学習会を開催し、広く道民の学習活動を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○レポート学習会：動画配信後 ・開催場所：かでの2・7
	5「道民カレッジ」ボランティア活動支援事業	<p>道民カレッジの充実と推進を図るため、道民カレッジボランティアによる自主的・自発的な活動を支援するとともに、圏域間の情報交流や称号取得者の技能等の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人 数：約120人 ○活動場所：全道5圏域 ○主な活動 <ul style="list-style-type: none"> ・カレッジ事業への運営協力、支援活動 ・カレッジ生の学習相談活動 ・単位取得方法及び称号取得へのアドバイス活動 ・カレッジ生の加入促進活動 ・カレッジ生間の情報交流会の活動 ・新規講座の自主的な企画、実施活動 ○主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・圏域代表者会議の実施 ・称号取得者セミナーの実施
	6 学習成果実践事業	<p>道内各地で学習している道民が、その学んだ成果を活用して、自ら講座を企画・実施し、地域づくりを担う実践力を育成する。</p> <p>また、顕著な功績が認められる実践者等を表彰する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開催時期：4月～ ○開催会場：道内5会場 ○対 象：道民 ○内 容：講演・実践発表等、かでの講座の遠隔学習、インターネット講座の学習
	7 広報誌発行事業	<p>会員及び生涯学習関係機関・団体等に広報誌を通して情報を提供し、生涯学習の振興に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○回 数：年4回 ○部 数：1回1,200部
	8 生涯学習情報資料の展示・提供事業（情報交流広場管理事業）	<p>生涯学習に関する図書・資料・リーフレットなどを展示・提供するとともに、道内市町村や団体の生涯学習の取組や成果等を広く紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ、LD、インターネット講座DVDの視聴 ・道内市町村の広報誌及び情報リーフレットの展示 ・ガイドブック、ポスター及び連携講座関係資料の展示 ・道内市町村及び団体の学習活動に関する実践成果等の企画展示会の開催 ・道民カレッジ生の交流コーナーの活用促進 ・道民の利用に供するため、土曜日・祝日を除く平日、日曜日（9:00～18:00）に広場を開館
	9 視聴覚教材貸出事業	<p>生涯学習活動の振興を図るため、道教委保有の視聴覚教材を官公庁、学校、社会教育関係団体等に貸出しする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16ミリフィルム、ビデオ、LD、DVD
収益事業等（その他事業）	10北海道スポーツ推進委員協議会受託事業	<p>北海道スポーツ推進委員協議会の管理運営のために事務局を受託し、道民の生涯スポーツ活動に寄与し、生涯学習社会の実現を図る。</p>

これからの生涯学習を展望して

北海道科学大学未来デザイン学部

教授 梶谷 崇

近年の一連の大学改革の中で「学士力」というタームがクローズアップされ、大学は教育カリキュラムの見直しを迫られている。従来の知識伝授型の教育を反省し、真に社会の要請に答えられる教育とは何かが、この数年来問われている最重要課題の一つであり、大学という場に身を置くものとして、このことは日々実感している。

さて、ここでは、その改革の中で大学生が卒業までに身につけるべき力として「生涯学習力」が挙げられていることに注目したい。これは、字義通り生涯を通じて学習を続けていく力、生涯学習を継続していく力のことであり、大学卒業後も継続して生涯学び続けることを大学の教育カリキュラムの中に含めるということである。私の勤務校もその例外ではなく、ディプロマポリシー中にも「自らを律し、学び続ける力を身につける」という項目が含まれている。これから大学は一般教養や専門知識に加え、生涯学び続けることの大切さと姿勢を身につけ、そして学ぶスキルまで教育するのである。

この一連の動き自体に疑問は感じない。ただ、ここでもう少し考えて見たいのは、では、その姿勢を身につけた卒業生はその後どうなるのか、ということである。

卒業生たちは4月、一斉にそれぞれの新たな就職先へと旅立って行き、大学までのような学習活動は一旦そこで途絶える。就職先では半年程の研修期間があるだろうし、職場での学びも学習ではあるが、しかしそれは仕事を身につけるためのものであり、いわば会社の利益を生み出すための学習である。むしろ給料をいただきながら学ぶのであるから、それは労働の一部であるとも言える。無論、会社が社員に対して課す職業教育がたとえ労働の一部であると考えても、それ自体は学習であり生涯学習の一部であることは違いない。ただ、生涯学習の醍醐味は学習者みずからが、自己啓発や生活の向上を目指して自発的・選択的に学ぶというところにあるだろう。学びの目的や目標があくまでも個人に委ねられる学びにこそ生涯学習の喜びや楽しみがある。

そう考えると、学生たちが就職後にその生涯学習の醍醐味を享受できるか、といえ、十分とは言えないと思う。例えば、英語などの語学を学び続けたいと考えた場合、働き方改革が推し進められているとはいえ、現時点では大半の従業員は朝から夜までの業務に従事し、学ぶ時間を確保することは容易なことではない。仮に週に2日ほどでも定時退勤して民間の語学学校に通えたとしても、その学費は新人社員にとって大きな負担であり、万人に多くの機会が与えられているとは言えない。

大学において生涯学習力を身につけることは重要なことであるが、その後がなくならなければ、生涯学習は今後も時間とお金に余裕のある中高年のものだけに止まってしまう。若年社会人への啓発も必要だし、民間によらない生涯学習サービスのより一層の充実も必要である。そして、働き方にも工夫が必要だ。例えば、プレミアムフライデーのような取り組みは、一般にはゆとりある生活を実現する余暇時間のように受け止められがちであるが、同時に学習時間としての活用も提案されている。プレミアムフライデーの導入率は現時点では低調であるが、こういった社会の変革を推し進め、仕事と両立させながらできる学習の方法ももっと提案していく必要がある。

大学側も、この変化の激しい現代社会において学んだ知識を卒業後もどう維持・発展させていくのか、というところまで見据えるスタイルへと変化してきている。生涯学習における大学と社会の連続性を今後考えていきたい。

私の生涯学習

道民カレッジ生（七飯町）

神 成 武 男



ある日のこと、友人から函館山の「三十三観音巡り」に誘われた。函館山山麓に観音像が鎮座しているなど全く知識がなかったので、興味本位で参加することにしたのである。次に函館山の北方向に聳える「蝦夷松山」登山に誘われ、公務員時代、国の機関で森林管理・経営の仕事に携わっていたこともあり、山歩きには自信があったので参加することにした。珍しい山野草の名前を学び、久しぶりの山登りに心地よい汗を流し、眼下に遠くは恵山や函館市内を含めた亀田平野の眺望が素晴らしかったことが思い出される。

これが縁で「森誘クラブ」の会員になって、「北海道生涯学習協会・道民カレッジ」の組織があることを初めて知ることとなり、「道民カレッジ手帳」を手に入れたのである。

函館近隣の山々、時にはニセコ山系や松前方面の大千軒岳などで汗を流し、時には、津軽海峡を越えて、弘前・下北半島・八戸地方の史跡探訪、世界遺産・白神山地巡りなど、更には、函館を初めとする道南地方の史跡探訪・食品工場見学など、初めての体験の中で、自分なりに大小様々な発見があり、楽しい思い出が沢山積み重なっている。また、仲間との交流中の雑談の中に、各自が持っている様々な生活の知恵など交換があり、「え！ そんなこと知らなかった」、「なるほどそんなこともあるのか」などの感嘆することが数多くあり、これらのことが「私の生涯学習」の源となっており、私の大きな財産になっている。

最近ある書の中に、興味深い一説を見つけた。その主旨は「本に書いてあることや、人に教えてもらった知識をそのまま覚えることは案外簡単なもの、しかし、その多くの知識を得たからと言って、沢山学んだと思っは大間違いである。学ぶとは、先ず自分で疑問や疑いを持つようにすること、『なぜ？ どうして？』『本当だろうか？』という疑問は、答えを知りたい強い気持ちを引き起こす。その気持ちがさらなる学びや深い思索、実践を生み出す。そして答えは再び疑問を生み出し、理解が深まるのである」と述べている。さて、そこで自分に問いかけてみた、講座や史跡探訪などの中で、沢山の知識を教えられ、現地で見聞してきたが、疑問を持って考えたことがあまりなかったように思う。つまり上述の一説からすると、「自分は学んだことにはならない」となり、困惑してしまうが、あまり深く考えずに、この主旨を頭の隅に置き、今後の学習の糧にしたいと考えている。

道民カレッジの会員になって10数年経過したが、我が人生も節目の「傘寿」を迎え、体力的に老いを感じ始め、頭（脳）の方も、物忘れが多くなってきている。

老いは止めることが出来ないが、野山を歩くことで体力の現状維持を図り、ボケ老人にならないために、何事にも好奇心を持って各種企画に参加していきたいものである。

“老いは、われわれの顔よりも、われわれの心にシワをつける”（モンテーニュ）

この名言を心に抱きしめ、心のシワを少なくして、道民カレッジの仲間として、八十歳後の人生を明るく楽しく、元気に歩んで行きたいものである。

■■■平成30年度情報交流広場（まなびの広場）展示計画（4月～9月）■■■

月	実施期間	実施団体名	展示テーマ
4	4/10（火）～4/27（金）	国立大雪青少年交流の家	国立大雪青少年交流の家 紹介パネル展 「～新たな発見!ココロにのこる感動体験!～」
5	5/7（月）～5/31（水）	石狩市民カレッジ	「いしかり市民カレッジ」で学びませんか?
6	6/1（金）～6/29（金）	北海道青少年体験活動支援施設	道立青少年体験活動支援施設 ネイパルPR展
7	7/17（火）～7/31（火）	北海道文化財保護協会	全国の城の展示
8	8/1（水）～8/31（金）	北海道立図書館	北海道の150年をふり返る
9	9/3（月）～9/14（金）	北海道文化財保護協会	明治・大正・昭和・戦前・戦中・戦後のお宝展示

随想41

酒合戦の話

以前にこの通信の随想9で、「こいや利兵衛」なる人物が一晩に一人で日本酒を1斗9升5合(およそ2斗=20升=一升瓶で20本)飲んだという話を紹介した。血中アルコール濃度の上昇を抑えるには水割りで飲むしか方法がないであろうと考えてみたのである。その人物の事などが忘れられず、ずっと心の隅に残っていた。すると何の事はない。インターネット検索で、すぐに出てきた。今回はその情報を紹介する。ちなみに1升=1.8l、1合=180mlである。

それは、万八楼酒合戦と言われる江戸時代の文化14年(1817)3月の出来事。江戸は両国橋の万屋八兵衛の家の万八楼と呼ばれたところでの大食大飲会。酒の部で1位に輝いたのが芝口の30歳の鯉屋利兵衛であったらしい。3升入りの杯で6杯半つまり1斗9升5合を飲み、チャンピオンになったという。そして飲んだ後はその座に倒れ、しばしの休憩の後、目を覚まし、水を茶碗で17杯飲んだとされている。やはり水で薄めて血中アルコール濃度を下げたのである。ちなみに2位の人は、3升入杯で3杯半(1斗5合)飲んだ後、少しの間倒れ、目が覚めてから、茶碗で砂糖湯を7杯飲んだらしい。3位は68歳の男。3升入杯3杯。

4位は47歳で、3合入杯27杯(8升1合)を飲み、飯3杯と茶9杯をその後に胃に入れたらしい。5位は51歳。5升入杯(宇田川:5合入の誤りか)11杯(5升5合)で、茶4杯飲んだという。6位は73歳。5升入井鉢1杯を飲み、翌朝まで外に倒れていたという。7位は63歳の男で、1升入4杯を飲み、謡をうたい一礼して帰ったという。このように、大酒呑みが一堂に会して酒を競い合う酒合戦が江戸時代にあったらしい。この7位の男などは、飲んだ後に謡をうたって一礼をして去っていったとされ、粋な(?)飲み方をしていると言えよう。

この合戦のほかに、文化12年(1815)の東京足立区千住での酒合戦、四国では讃岐国(香川県)高松での酒合戦(天保2年・1831)、埼玉の熊谷での酒合戦(昭和2年・1927)などがあったとの事。もっと古くは、今の神奈川県川崎市での大師河原の酒合戦が慶安元年(1648)にあったという。さらに古くは延喜11年(911)の宇多上皇の酒宴とされる酒合戦があったらしい。

世に馬鹿なことは絶えないもので、そんな事を紹介する馬鹿もここにいる。でも積年の胸のつかえが取れた感じではある。これも生涯学習か?居酒屋での話題にどうぞ。

(公財)北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

事務局からのお知らせ

○賛助会員を募集しています

当協会では、今年度も会員の皆様のご支援ご協力により各事業を実施しております。

つきましては、当協会の賛助会員を募集しておりますので、よろしく願いいたします。

※賛助会員(個人 一口3,000円、団体 一口10,000円)

詳しくは事務局までご連絡ください。

(札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 TEL011-281-6661)

●表紙写真提供 三原和廣氏

協会職員の動き

4月1日付け採用

学習振興課主事 北川麻莉

3月31日付け退職

学習振興課主事 三鍋宏奈

学習振興課嘱託職員 北嶋和幸

編集後記

花々のつぼみも、ようやくほころび始めやわらかな日ざしが心地よい季節になりました。

当協会の平成29年度事業も滞りなく終了することができました。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

今号には、平成30年度の事業計画の概要を掲載させていただきました。

この事業計画に基づき、より充実した事業となるよう努めて参りますので、今年度も皆様のご支援をいただきますようお願い申し上げます。